

保険調剤基礎コースを受講して

大田嵩子

期日：2016.4.11(月)～2016.4.14(木)

講師：ネオフィスト研究所 吉岡ゆうこ先生

場所：品川インターシティーフロントビル

【1日目】

○保険薬局での心構え

○薬剤師・薬局を取り巻く環境変化

・薬剤師倫理規定や薬剤師綱領についてももう一度読み直しました。保険調剤は色々な法律によって成り立っているため薬だけでなく、法律の知識が必要であることを学びました。

・団塊の世代が後期高齢者になる 2025 年、10 年後の 2035 年に向けて中長期的視野に立ってかかりつけ薬局に再編する道筋を提示しており、24 時間対応・在宅対応などの機能を発揮し対物業務から対人業務への切り替えをすることで患者さんとの関わり合いを増やしていくという事が大切だと知りました。

【2日目】

○薬剤師の法的責任と倫理的責任

○新人薬剤師の勉強の進め方

・調剤過誤の例を実際に見て行きました。名称が似ている為、真逆の作用の薬を投薬してしまったり、用法用量の間違え、鑑査ミスなどによって患者さんの命を殺めてしまうという事を重く受け止め、これからの調剤を慎重かつ迅速に行って行かなければと思いました。

・新人薬剤師の勉強法として、薬を調べる為の本を 1 冊持っておく事、すぐに取り出せる小さいサイズのメモ帳とペンを用意し話を聞くという事、自薬局の繁用品目のリストを作成し、その薬品の処方箋を読む事も勉強になるという事を教わりました。また月刊誌の定期購読を読む方法もあり、これは自分で選んで読むと情報が偏ってしまうので幅広い情報を得る事が出来るという事を知りました。実際に読んでみようと思います。

【3日目】

○医療保険制度・調剤報酬

・公費負担医療や自立支援医療、公害医療、入院中の患者の他の医療機関の取り扱い・調剤加算・時間外加算など細かい項目を 1 つずつ丁寧に例を挙げて実際に計算したりしました。現場では機械が計算してくれますが、仕組みなどが分かりとても勉強になりました。

【4日目】

○会話のマナー

○疑義紹介・服薬指導

・“メラビアンの法則” といって初対面の人が印象を決定づけるには 55%が視覚情報(見た目・表情・仕草)、38%が聴覚情報(声の質・速さ・大きさ・口調)、7%が言語情報である事を知りました。身だしなみや言葉使いを日頃から意識し、その上でより多くの知識を身につけていかなければと思いました。また、会話をする際は命令形ではなく依頼・提案形で、否定形ではなく肯定形で、クッション言葉を上手に使いながら、というのを意識して進めたいです。

・実際に2人1組になって服薬指導をしたり、みんなの前で疑義紹介をしました。

服薬指導では前回の薬歴をもとに患者さんの症状・副作用の有無・アドヒアランスの確認を短い会話の中で正確に得ていく事の大切さと難しさを学びました。これから現場に出て自分なりのやり方を見つけていこうと思います。

疑義紹介では病院に電話をかける前に他に確認事項はないか、薬の変更を提案する際はその代替え薬の準備をした上で簡潔にかつ正確に伝える事の難しさを実感しました。

《全体を通して》

社会人として基本的な事から丁寧に教えて頂きました。それを踏まえた上で薬剤師として重要な専門的な知識を1つずつ細かい所まで学ぶ事ができ、大変勉強になりました。

今回の講義を受けて自分の知識の少なさを痛感しました。これから日々お業務をこなしながら様々な知識を身につけ、患者さんや他の医療従事者から頼りにされる薬剤師になれるよう頑張ります。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて頂き、ありがとうございました。